⑥刊行物に関する事業一覧

刊行物の名称	担当部門	頁
『美術研究』（B15）	美術部	107
『日本美術年鑑』（B16）	美術部	107
『芸能の科学』（＊C04）	芸能部	107
『保存科学』（D07）	保存科学部	108
『東京文化財研究所年報』（＊A03）	情報調整室	67,108
近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「鉄道および鉄道施設の保存・修復について」講演集』（＊E01）	修復技術部	108
第 25 回国際研究集会報告書『日本の楽器―新しい楽器学へ向けて』（C08）	芸能部	109
第 9 回アジア文化財保存セミナー「アジアにおける壁画の保存」報告書『Ninth Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage―Conservation of Wall Paintings in Asia』（F17）	国際文化財保存修復協力センター	109
第 10 回アジア文化財保存セミナー「各国の文化遺産保護制度―その国際比較―」報告書『Proceedings of the Tenth Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage』（F18）	国際文化財保存修復協力センター	110
国際文化財保存修復研究会報告書（F15）	国際文化財保存修復協力センター	110
文化財保存修復研究協議会報告書『第 32 回文化財保存修復研究協議会―近世輸出工芸品の保存と修復 III』（＊E10）	修復技術部	111
『民俗芸能研究協議会報告書』（＊C04）	芸能部	112
在外日本古美術品保存修復協力事業報告書『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書　平成 14 年度（絵画／工芸品)』（＊E05）	修復技術部	112
蔵書目録『東京文化財研究所蔵書目録 2　日本東洋近代美術関係』（A05）	情報調整室	113
『木村荘八日記　〔明治篇〕校註と研究』（B19）	美術部	113
『中世の彩色木彫像の材料と技法』（D11）	保存科学部	114
『文化財の生物被害防止ガイドブック―臭化メチル代替法の手引』（D10）	保存科学部	114
国際研修「紙の保存と修復」報告書『International Course on Conservation of Japanese Paper 2002』（＊E09）	修復技術部	115
我が国における文化遺産保存国際協力事業に関する調査研究報告書『日本による文化遺産保存国際協力の現状と問題―国際文化財保存修復研究会の事例から―』（F20）	国際文化財保存修復協力センター	115
各国の文化財保護制度に関する現状と課題（中国編）報告書叢書［文化財保護制度の研究］『中国の文化財保護制度の研究』（山西省・陝西省編）（F19）	国際文化財保存修復協力センター	115
ドイツにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査研究報告書叢書［文化財保護制度の研究］『ヨーロッパ諸国の文化財保護制度と保存活用事例』（ドイツ編）（F16）	国際文化財保存修復協力センター	116

『重要美術作品資料集成に関する研究　平成 14（2002）年度報告書』（＊B01）	美術部	116
『日本における外来美術の受容に関する調査・研究』（＊B02）	美術部	117
『東京文化財研究所芸能部所蔵　芝居番付目録』（＊C01）	芸能部	117
『伝統的修復材料に関する調査研究 I』（＊E06）	修復技術部	117
『焼損文化財の保存修復に関する研究報告書』（*E08）	修復技術部	118
『日韓共同研究報告書』（＊E03）	修復技術部	118
『東文研 NEWS』（＊A03）	情報調整室	67,108
『東京文化財研究所概要』（＊A03）	情報調整室	67,108

＊注　・『芸能の科学』及び『民俗芸能研究協議会報告書』は、芸能部出版関係事業（⑥C04）の一環として実施した。

・『東京文化財研究所年報』及び『東文研 NEWS』・『東京文化財研究所概要』は、広報企画事業（③A03）の一環として実施した。

・近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「鉄道および鉄道施設の保存・修復について」講演集』は、近代の文化遺産の保存修復に関する研究（①E01）の一環として実施した。

・文化財保存修復研究協議会報告書『第 32 回文化財保存修復研究協議会―近世輸出工芸品の保存と修復 III』は、文化財保存修復研究協議会の開催（④E10）の一環として実施した。

・在外日本古美術品保存修復協力事業報告書『在外日本美術品修復協力事業修理報告書　平成 14 年度（絵画／工芸品）』は、在外日本古美術品保存修復協力事業（②E05）の一環として実施した。

・国際研修「紙の保存と修復」報告書『International Course on Conservation of Japanese Paper 2002』は、国際研修「紙の保存と修復」（⑤E04）の一環として実施した。

・『重要美術作品資料集成に関する研究　平成 14（2002）年度報告書』は、重要美術作品資料集成に関する研究（①B01）の一環として実施した。

・『日本における外来美術の受容に関する調査・研究』は、日本における外来美術の受容に関する調査研究（①B02）の一環として実施した。

・『東京文化財研究所芸能部所蔵　芝居番付目録』は、伝統芸能の特殊な上演に関する調査研究（①C01）の一環として実施した。

・『伝統的修復材料に関する調査研究 I』は、伝統的修復材料に関する調査研究（①E06）の一環として実施した。

・『焼損文化財の保存修復に関する研究報告書』は、焼損文化財の保存修復に関する研究（①E08）の一環として実施した。

・『日韓共同研究報告書』は、周辺環境が文化財に及ぼす影響評価とその対策に関する研究（①E03）の一環として実施した。

『美術研究』（⑥B15-02-2/5）

昭和７年１月、東京文化財研究所の前身である美術研究所の初代所長・矢代幸雄の提唱により第１号を刊行。以来、70 年近くにわたって、日本・東洋の古美術ならびに日本の近代・現代美術とこれらに関連する西洋美術について、研究論文・図版解説・研究資料等を掲載し続けている。本年度は 377、378、379 号を刊行した。

『美術研究』377 号
（論　　文）“ 理想画 ” への道程―橋本雅邦《龍虎》以後　塩谷　純
（論　　文）珊瑚会論考　菊屋吉生
（研究資料）珊瑚会資料集（補遺）　菊屋吉生・塩谷純編
『美術研究』378 号
（論　　文）光明本尊考　津田徹英
（研究資料）クンストカーメラ所蔵フィッセル・コレクションの
　　日本絵画　―川原慶賀作品を中心に　山梨絵美子
『美術研究』379 号
（論　　文）和辻哲郎『古寺巡礼』―偏在する「美」―　鈴木廣之
（研究資料）ウィーン美術史美術館所蔵・画帖　塩谷　純

『美術研究』

『日本美術年鑑』（⑥B16-02-2/5）

日本美術年鑑は、わが国の各年の美術活動と美術研究・批評の状況を記録した刊行物である。美術部では当研究所の前身である帝国美術院附属美術研究所が昭和 11 年から始めた『日本美術年鑑』の編集を引き継ぎ、刊行を継続してきた。昨年刊行した平成 12 年版において、収録すべき情報の精選と分類の見直しをはかったが、今年度刊行した平成 13 年版においても、その方針を引き継ぎ編集した。平成 13 年版は、下記のような構成をとり、B5 判 245 ページとなった。

平成 12 年美術界年史
美術展覧会（企画展、作家展、団体展）
美術文献目録
　定期刊行物所載文献
　美術展覧会所載文献（企画展、作家展）
物故者

『日本美術年鑑』

『芸能の科学』（⑥C04-02-2/5：芸能部出版関係事業の一環として実施）

古典芸能や民俗芸能に関する研究論文、調査報告、資料翻刻等を掲載している。

『芸能の科学』第 30 号
『源平魁躑躅』の上演をめぐって―上演稀少演目に関する調査―　鎌倉　惠子
長門の岩戸神楽舞について　俵木　悟
民謡伝承の場　小野寺節子
イベント等における民俗芸能の公開に関する調査報告―　宮田　繁幸
［資料紹介］大蔵虎明筆「式三番」　高桑いづみ
　「大蔵虎清狂言伝書」・「大蔵虎明伝授目録」　小田　幸子
映画文化協会所蔵の歌舞伎台本（一）　児玉　竜一
芸能部五十年の歩み　芸能部編

『芸能の科学』

『保存科学』（⑥D07-02-2/5）

所属研究員による文化財の保存と修復に関する科学的調査、研究、受託研究報告等の論文、報告および修復処置概報等を掲載している。

『保存科学』第 42 号

埼玉稲荷山古墳出土金錯銘鉄剣の金象嵌銘文の蛍光X線分析
早川泰弘・三浦定俊・大森信宏・青木繁夫・今泉泰之

臼杵磨崖仏で観察される彩色表現について（2）―屋外彩色文化財の現地分析法の展開―
朽津信明

鎌倉のやぐらで観察される装飾材料について　朽津信明

エミシオグラフィ撮影用代替フィルムとしての RO-100 の特性
三浦定俊・松島朝秀

川越市山車収蔵施設の環境調査　石崎武志・孫喜山

アリルからし油による顔料の変色とその機構　佐野千絵・早川泰弘・三浦定俊

文化財収蔵庫用建築材として使用される国産杉材の試験法に関する検討
佐野千絵・日下光彦・三輪嘉六・三浦定俊

『保存科学』

簡易型窒素発生装置と脱酸素剤の併用による中規模の低酸素濃度殺虫処理
木川りか・宮澤淑子・三浦定俊

二酸化炭素殺虫処理における種々の文化財材質の二酸化炭素吸着量
木川りか・後出秀聡・木村　広・宮澤淑子・三浦定俊・Tom STRANG

図書資料のカビ対策：三康図書館の事例
佐野千絵・志多伯峰子・佐藤一博・浅井真帆・早川仁英・能見勝利・木川りか・三浦定俊

親水性樹脂を用いた凍結劣化抑制の試み 早川典子・森井順之・朽津信明

ドイツにおける考古学遺産の保存と活用―ヨーロッパにおける遺跡の保存と活用の事例（1）―
井上　敏・二神葉子

文化庁委託事業「臭化メチル製剤の使用実態調査」報告　佐野千絵・木川りか・山野勝次・三浦定俊

展示公開施設の館内環境調査報告―平成 13 年度―　石崎武志・佐野千絵・三浦定俊

平成 14 年度　修復処置概報　修復技術部

『東京文化財研究所年報』（③A03 の一環として実施）

広報企画事業（③A03）の一環として実施した（67 頁参照）。

近代の文化遺産の保存修復に関する報告書『近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「鉄道および鉄道施設の保存・修復について」講演集』（①E01 の一環として実施）

刊行にあたって　川野邊　渉
近代の科学・産業文化財の保存と活用　冨坂　賢
鉄道文化遺産におけるボランティアの成果と課題、自験例を中心に　笹田　昌宏
蒸気機関車の保存と維持について　杉本　正一
B20 形復元工事について　山崎　悦男
ドイツ・イギリスの博物館における鉄道文化財の保存修復に関して　川野邊　渉

『近代の文化遺産の保存修復に関する研究会
「鉄道および鉄道施設の保存･修復について」講演集』

第 25 回国際研究集会報告書『日本の楽器―新しい楽器学へ向けて―』（⑥C08-02-1/1）

平成 13 年 11 月に芸能部の担当でおこなった「国際研究集会・日本の楽器」の報告書を、刊行した。

＜基調講演＞

1 新たな楽器学へ向けて―音楽考古学からの提言― 笠原潔

2 楽器学と博物館の環境―メトロポリタン美術館における日本楽器コレクションをめぐって― ケン・ムーア

＜セッションⅠ 楽器学の現在＞

和琴の形態とその変遷 野川美穂子

益田鈍翁旧蔵鼓胴について―東大寺旧蔵四ノ鼓の可能性― 高桑いづみ

日本の琵琶―楽器の種類と変遷― 薦田 治子

古管尺八とその奏法の特徴について 志村 哲

＜セッションⅡ 図像学から見た楽器＞

敦煌壁画に見る『舞』と『楽』のイメージ―美術史研究者の立場からの音楽図像学― 勝木言一郎

描かれた楽―日本伝統音楽の歴史的研究における音楽図像学の可能性と限界について― スティーブン・ネルソン

舞楽の描写―信西古楽図を中心に― デイビッド・ウオーターハウス

浮世絵に見る楽器 オノ・メンシンク

＜セッションⅢ 工芸品としての楽器＞

鼓の装飾 加藤 寛

正倉院楽器の保存と修復について 木村 法光

春日大社国宝蒔絵箏と三つの黒漆鼓胴について 北村 昭斎

＜セッションⅣ 楽器の修復と展示＞

グラッシ博物館における日本の楽器 エステル・フォンタナ

彦根藩主井伊家伝来の雅楽器 齋藤 望

討論

東京国立博物館所蔵楽器目録

第 25 回国際研究集会報告書

第 9 回アジア文化財保存セミナー「アジアにおける壁画の保存」報告書（英文）（⑥F17-02-1/1）

Ninth Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage—Conservation of Wall Paintings in Asia—

SUMMARY

KEYNOTE SPEACH

COUNTRY REPORTS: <India > <Bangladesh > <Japan > <Korea > <China > <Laos > <Thailand > <Vietnam > <Indonesia > <malaysia> <Buthan> <Nepal>

INTERNATIONAL REMARKS: <UNESCO> <ICCROM>

OVERALL QUESTION and ANSWER

OVERALL DISCUSSION

PROPOSED CHARTER

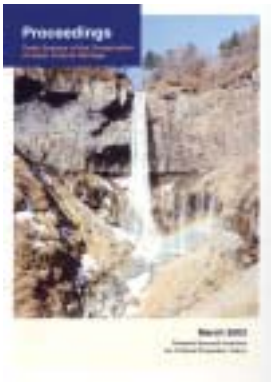
CONCLUSION

第 9 回アジア文化財保存セミナー報告書

Ａ４版 186 頁、500 部刊行し、国内外の関係機関、組織、専門家に送呈。

第 10 回アジア文化財保存セミナー「各国の文化遺産保護制度―その国際比較―」報告書（英文）（⑥F18-02-1/1）

Proceedings of the Tenth Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage



第 10 回アジア文化財保存セミナー報告書

これは 2002 年 3 月 18 日（月）～22 日（金）に実施した「第 10 回アジア文化財保存セミナー」の報告書である。このセミナーは 2001 年度から 5 カ年間「アジア諸国の文化財保護制度」をテーマとして始められたが、当該年度は特にアジア諸国の文化財保護に関わる法令について、事例紹介・討議が行われた。この報告書は、各国の文化財保護制度に関する発表と、質疑応答の内容をまとめたものである。

〈目次〉

PROGRAM

Essential Overview of the Tenth Seminar on the Conservation of Asian Cultural Heritage (OKADA Ken)

COUNTRY REPORTS

Korea (KANG Woobang)　Managing Cultural Heritage of Korea and its Measures

China (LU Zhou) A Review of the Statutes for the Preservation of Architectural Heritages in Mainland China Since 1949

Vietnam (NGUYEN Quoc Hung)　Legislation for protection of cultural heritage in Vietnam

Philippines (Emelita V. ALMOSARA)Public System for the Protection of Cultural Heritage: Evolving Role of Cultural Heritage　―Country Report of the Philippines―

Sri Lanka (Jagath WEERASINGHE)　Protection of Cultural Heritage in Sri Lanka: history and methods

Iran (Adel FARHANGI SHABESTARI)　An Overview of Policies on the Protection of Cultural Properties in Iran

Thailand (Ronarit DHANAKOSES)　The Conservation of Historic Monuments, as a part of cultural heritage, in Thailand　Past, Present and Future

Japan (SAITO Hidetoshi)　History of the Protection and the Concept on Cultural Properties in Japan

India (Amita BAIG)　Cultural Policies in India and the Opportunities for the 21st Century

General Discussion for Conclusion

Conclusions

Excursion (Nikko - World Cultural Heritage Site)

ANNEX

List of the Participants

国際文化財保存修復研究会報告書（⑥F15-02-1/1）

この報告書は、国際文化財保存修復研究会で行われた報告、質疑応答、総合討議等の内容をまとめたものである。2002 年度は第 11 回、第 12 回研究会について、それぞれ報告書を作成した。

第 11 回国際文化財保存修復研究会報告書

第 11 回国際文化財保存修復研究会報告書（2002 年 9 月発行）

［目次］

「プログラム」

「本研究会の趣旨」　東京文化財研究所　岡田健

「民俗学は"異文化"をとらえうるか」　法政大学　川村湊

「言語の違いとその橋わたし」　女子美術大学　林正寛

「清末中国知識人の日本"発見"―東洋と西洋の間に囲まれて」大妻女子大学　銭国紅

「総合討議」

『" 異文化理解 " というコミュニケーション―第 11 回国際文化財保存修復研究会〈地域社会と文化遺産Ⅱ〉総括―」　東京文化財研究所　岡田健

「参加者名簿」

第 12 回国際文化財保存修復研究会報告書（2003 年 3 月発行）
叢書［文化財保護制度の研究］"無形の文化財"の保護に関する国際比較（日本・アジア・UNESCO 編）（第 12 回国際文化財保存修復研究会報告書）

［目次］
「序」　東京文化財研究所　岡田　健
「プログラム」
「開会挨拶」　東京文化財研究所　渡邊明義
「趣旨説明」　東京文化財研究所　岡田　健
「日本における“無形の文化財”保護の現状と方向性」
東京文化財研究所　宮田繁幸
「アジア各国における"無形の文化財"保存の動向」
東京文化財研究所名誉研究員　星野　紘
「ユネスコにおける"無形の文化財"保存についての取り組み」
ユネスコ　佐藤直子
「総合討議」
「総括」　東京文化財研究所　岡田　健
「参加者名簿
「講演者紹介」

第 12 回国際文化財保存修復研究会報告書

※国際文化財保存修復協力センターでは、本報告書の刊行を機に、文化財保護制度の研究に関わる報告書を一連の叢書［文化財保護制度の研究］として出版していくことになった。

文化財保存修復研究協議会報告書『第 32 回文化財保存修復研究協議会―近世輸出工芸品の保存と修復Ⅲ』
（④E10 の一環として実施）

刊行にあたって　青木　繁夫
琉球漆器研究の歩みを振り返る　徳川　義宣
Reflections on the Study of Ryukyu Lacquer Ware　TOKUGAWA Yoshinobu
「三井の長崎貿易経営史料と大阪銅座史料」　賀川　隆行
19 世紀の輸出漆器・補遺―青貝屋の文政・天保期を中心に―　勝盛　典子
Summary of a Study on Aogai-ya Buemon (Part II) by KATSUMORI Noriko
Cynthia VIALLE
江戸時代のオランダ船輸入染織品について　石田　千尋
バイエルン国立民族博物館蔵「源氏蒔絵螺鈿化粧箱」実見会　齋藤　潮美
北欧に伝わった日本の漆器　永島　明子
在デンマーク日本漆器調査報告―輸出様式とその周辺―　山崎　剛
輸出漆器の技法について　加藤　寛
オックスフォード大学付属アシュモリアン美術館蔵
「風景蒔絵ナイフアーン」の保存と修復　勝又　智志
輸出漆器の保存と技法について　山下　好彦
ハンブルグ工芸美術館蔵蓬莱蒔絵手箱　松本　達弥

文化財保存修復研究協議会報告書

『民俗芸能研究協議会報告書』（⑥C04-02-2/5：芸能部出版関係事業の一環として実施）

芸能部では毎年テーマを定め、保存会関係者・行政担当者・研究者などが一堂に会して民俗芸能の保護と継承について研究協議する会を開催している。第 5 回に当たる本年は「民俗芸能の映像記録作成」をテーマとして開催し、その報告・総合討議の内容などをまとめて報告書として刊行した。

民俗芸能研究協議会報告書

テーマ「民俗芸能の映像記録作成」

1. 序にかえて　　渡邊明義（東京文化財研究所長）
2. 事例報告
   ＊報告 1　民俗芸能記録映像制作現場からの報告－箱根湯立獅子舞の事例を中心に－
   細見　吉夫（映像演出家）
   ＊報告 2　映像記録における技術的側面と問題－岩手県における民俗芸能の記録を例に－
   阿部　武司（東北文化財映像研究所所長）
   ＊報告 3　鴨沢神楽記録保存事業への取り組み
   後藤　公明（鴨沢神楽保存会）
   千葉　達也（江刺市教育委員会社会教育課文化係主任）
   ＊報告 4　尾口でくまわしの映像記録作成について
   道下　甚一（東二口文弥人形浄瑠璃保存会会長）
   宮下　定男（尾口村教育委員会教育課長）
3. 総合討議
4. 参考資料
5. アンケート集計結果
6. あとがき

在外日本古美術品保存修復協力事業報告書

『在外日本古美術品保存修復協力事業修理報告書　平成 14 年度（絵画／工芸品）』（②E05 の一環として実施）

平成 13 年度、在外日本古美術品保存修復協力事業の対象作品の修復に関する報告書。平成 14 年 3 月 29 発行。

在外日本古美術品保存修復協力事業報告書

刊行にあたって	渡邊　明義
在外日本古美術品保存修復協力事業実績一覧	
平成 14 年度（2002）調査一覧	
〔絵画篇〕	
1　南蛮人渡来図屏風	
修理報告	半田　昌規
FT-IR 分析報告	早川　典子
紙質検査結果	大川　昭典
クリーニング綿棒の蛍光 X 線分析結果	早川　泰弘・三浦　定俊
作品解説	鈴木　廣之
2　文殊菩薩像	
修理報告	水谷　好夫
作品解説	津田　徹英
3　五秘密菩薩像	
修理報告	鈴木　　裕・林　　煥盛
蛍光 X 線分析	早川　泰弘
作品解説	津田　徹英

4　二河白道図
　修理報告　半田　昌規
　X 線分析　早川　泰弘
　作品解説　中野　照男
5　不動明王二童子像
　修理報告　山内　健也
　作品解説　中野　照男
〔工芸篇〕
　メトロポリタン美術館所蔵
　刀剣および刀装の修理について　加藤　寛
　オックスフォード大学付属　アシュモリアン美術館蔵
　風景蒔絵ナイフアーン　勝又　智志
　ハンブルグ工芸美術館蔵
　蓬莱蒔絵手箱　松本　達弥

蔵書目録（⑥A05-02-2/5）

『東京文化財研究所蔵書目録 2　日本東洋近現代美術関係』

現在、東京文化財研究所が所蔵する図書は約 10 万冊、雑誌は約 2700 種におよぶ 9 万冊を数えている。資料閲覧室では、所蔵図書資料の目録作成を 5 年計画で進めており、2002 年度は、昨年度の『東京文化財研究所蔵書目録 1 西洋美術関係　欧文編・和文編』に続いて、『東京文化財研究所蔵所目録 2　日本東洋近現代美術関係』を刊行した。

『東京文化財研究所蔵書目録 2 日本東洋近現代美術関係』

『東京文化財研究所蔵書目録 2　日本東洋近現代美術関係』2003 年 3 月刊行　口絵 16 図 541 頁

東京文化財研究所の所蔵する日本東洋近現代美術関係図書のうち、2002 年 3 月 31 日までに登録された欧文図書 159 件、和文図書 6,298 件、簡易装丁図書 379 件の合計 6,836 件を収録し、口絵図版で、収録された貴重図書を中心に紹介している。解題として、塩谷純（情報調整室）「明治大正美術史編纂事業について」の一文を掲載したほか、利用者の便をはかるために編著者名、作家名、美術団体名の三種の索引を末尾に付している。なお、国内外の主要な美術館博物館をはじめ、関連する諸機関（510 件）へ配布した。

研究組織：○井手誠之輔、塩谷　純、中村　節子（以上、情報調整室）

『木村荘八日記〔明治篇〕校註と研究』（⑥B19-02-1/1）

本書は、美術部の研究プロジェクトである「昭和前期を中心とする日本近代美術の発達に関する調査研究」の成果の一部である。内容は、画家、挿絵画家、文筆家として知られる木村荘八（1893～1959）の明治 44 年から大正 2 年までの「日記」（3 冊）を翻刻し、校正を加えた後に脚注をつけたものである。これに加えて、美術、文学、演劇、歴史等の各分野からの研究者による論文 8 編によって構成した。目次は、下記のとおりである。

『木村荘八日記〔明治篇〕校註と研究』

目次　《日記篇》
明治 44 年　pp.3-107
明治 45・大正元年　pp.109-204
大正 2 年　pp.206-223
註記　pp.224-291

《研究篇》

木村荘八の 1912 年―前衛と懐旧の原点をみるために
田中　淳　　pp.295-314
いろはにほへど　ちりぢりに
青木　茂　　pp.315-352
文学と美術の交流―パンの会・『白樺』の美術活動から
福島さとみ　pp.353-370
受信者から発信者へ―読書からみる木村荘八の評論家への歩み
伊藤陽子　　pp.371-399
記憶の現場へ―木村荘八日記と明治末の演劇界―
児玉竜一　　pp.400-421
浅草の芸能世界
横山泰子　　pp.422-440
明治時代後期の浅草風俗―浅草寺四万六千日を中心として
塚本陽子　　pp.441-455
『東京繁昌記』からふりかえる
田中正史　　pp.456-470

『中世の彩色木彫像の材料と技法』（⑥D11-02-1/1）

日独学術交流は平成 11 年度から、中世の彩色木彫像の研究を中心に、彩色文化財に関する共同研究を行っている。その成果は平成 15 年度に日独共同の論文集（英・独）として出版される予定になっているが、それに先立ち、共同研究の中で問題となった要点を整理して、ドイツから見た日本の彩色彫刻の保存修復、日本から見たドイツの彩色彫刻の保存修復が、どのような共通点や違和感を持って相互の研究者の目に映ったか、関連する写真とともに簡明に報告している（24 ページ、カラー）。

内容

1. はじめに　三浦定俊
2. 日本における彩色彫刻の研究状況　ミカエル・キューレンタール
3. 「日独共同による中世の彩色木彫像研究」覚書　津田徹英

『中世の彩色木彫像の材料と技法』

『文化財の生物被害防止ガイドブック―臭化メチル代替法の手引き』（⑥D10-02-1/1）

文化財燻蒸に長く用いられてきた臭化メチルの全廃を 2004 年末に控え、環境条件を整えて害虫による被害を未然に防ぎ、また害虫の発生を監視しながら適切に対応・管理する方法（総合的害虫管理　Integrated Pest Management、以下 IPM と略称）の普及が急務である。そこで、多くの美術館・博物館・文書館等の担当の方々に、臭化メチル代替法についてより具体的に知ってもらうための『文化財の生物被害防止ガイドブック―臭化メチル代替法の手引き（平成 14 年度版）』を編集した。この小冊子は、『生物被害防止に関する日常管理の手引き』（平成 13 年 3 月、文化庁文化財部）の考え方に沿って日常管理をどのように強化していくか、また重点的に監視していくにはどのようにしたらよいかを具体的に視覚化したもので、はじめて IPM という考え方を知った担当者を主たる対象読者として設定し、管理作業の流れを示す構成とした（32 ページ、カラー）。

都道府県立図書館・博物館・教育委員会、また臭化メチル実態調査にご協力いただいた館などを対象に、約 1000 部を配布した。

『文化財の生物被害防止ガイドブック―臭化メチル代替法の手引き』

国際研修「紙の保存と修復」報告書（⑤E09 の一環として実施）

International Course on Conservation of Japanese Paper 2002

Lectures
Shoso-in Monjo（Ancient Japanese Documents）　SUGIMOTO Kazuki
Ornamental Paper for *Sho*, the Art of Calligraphy　SHIMATANI Hiroyuki
The Use of Traditional Restoration Materials and Techniques
　for Inpainting and Pigment Consolidation　YAMAMOTO Noriko
Examination of Fibers from Cultural Properties under Restoration
　OOKAWA Akinori
Conservation Techniques for Asian Paintings　OKA Yasuhiro
Paste (*nori*) and Aged Paste (*furu-nori*) from a Chemical Point of View
　HAYAKAWA Noriko
General Overview of Damage on Japanese Paper Works by Insects and Fungi
　KIGAWA Rika
The Deterioration of Silk　Mary A. Becker
Excursion in Kochi
Practical Work
Presentation
Reference
　Illustration of Making of Paper
　Glossary

国際研修「紙の保存と修復」報告書

我が国における文化遺産保存国際協力事業に関する調査研究報告書
『日本による文化遺産保存国際協力の現状と問題―国際文化財保存修復研究会の事例から―』（⑥F20-02-1/1）

国際文化財保存修復協力センターでは、「国際文化財保存修復研究会」を開催し、外国の文化財の保存修復に関わっている専門家、研究者による事例報告と討論を通して、様々な問題の解決に向けての方策を探る場としてきた。この研究会は、1997 年 3 月に「アジア文化財保存修復研究会」の名称で第 1 回を開催して以降、年 2 回のペースで開催し、2003 年 3 月で代 13 回を数えるにいたっている。その間、毎回、多くの専門家・研究者が参集し、有意義な報告と真摯な討論が行われ、貴重な意見や提言がなされてきた。本書は第 1 回～第 9 回研究会の成果を再整理し、まとめたものである。

A４判　352 頁、500 部刊行し、国内外の関係機関、組織、専門家に送呈。

我が国における文化遺産保存国際協力事業に関する調査研究報告書

各国の文化財保護制度に関する現状と課題（中国編）報告書
叢書［文化財保護制度の研究］『中国の文化財保護制度の研究』（山西省・陝西省編）
(⑥F19-02-1/1)

本書に掲載する山西省と陝西省の保護制度に関する報告は、それぞれ異なる研究会においてなされたものである。山西省は、2001（平成 13）年 11 月 28 日に国際文化財保存修復協力センターが担当して開催した平成 13 年度文化財保存修復研究協議会においてなされたものである。山西省博物館長夏路氏（文化庁による文化人・芸術家招へい事業）と同博物館館長助理劉軍氏（文化庁のアジア美術館博物館専門家招へい事業）を東京文化財研究所へお招きした機会に、「山西省の文化財と文化財保護制度の現状」と題した研究会を開催した。

陝西省は、科学研究費補助金「中国陝西省北宋時代石窟造像の研究」（代表：岡田健）の中国側研究協力者として日本での調査研究に来日した陝西省考古研究所隋唐研究室主任張建林氏と西安文物保護修復センター研究員張在明

氏にお願いし、2002（平成 14）年 1 月 23 日に「陝西省の文化財保護の現状」と題して研究会を開催したものである。この 2 回の研究会の講演録のほかに、資料として『中華人民共和国文物保護法』その他を付した。

各国の文化財保護制度に関する研究は、文化財保存に関する国際情報の収集及び研究（①F01）、アジア文化財保存セミナー（②F06）、国際文化財保存修復研究会（④F09）のほか、上記のように様々なケースで外国から当研究所へ来所された専門家にお願いして開催する研究会等、複数のプロジェクトで展開しているところであり、その成果を公開するため、新たに叢書［文化財保護制度の研究］という体裁をとって、順次刊行していくこととしたものである。

各国の文化財保護制度に関する現状と課題（中国編）報告書

［目次］

「序」　東京文化財研究所　岡田　健
「山西省の文物と文物保護の現状」　山西省博物館　夏　路
「山西省博物館の概要と新館建設について」　山西省博物館　劉　軍
「雲岡石窟保護の現状」　東京文化財研究所　岡田　健
「陝西省における考古発掘と文物保護の現状」　陝西省考古研究所　張　建林
「西安文物保護修復センターの概況」　西安文物保護修復センター　張　在明
（付属資料―中華人民共和国文物保護法他）
「執筆者紹介」

ドイツにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査研究報告書

叢書［文化財保護制度の研究］『ヨーロッパ諸国の文化財保護制度と保存活用事例』（ドイツ編）（⑥F16-02-1/1）

（2003 年 3 月発行）

ドイツにおける文化財保護制度と保存活用事例の調査研究報告書

「序」　東京文化財研究所　岡田　健
〔論文〕
「ドイツの建築記念物の保存」　ヘッセン州記念物保存局　クリストフ・ヘンリヒセン
〔各論〕
「歴史的町並みと都市景観保護のための制度」　アーヘン工科大学　井川　博文
「歴史的建造物の修復と活用」　文化財建造物保存技術協会　木村　勉
「近代の産業遺産の保存と活用」　東京文化財研究所　斎藤　英俊
「考古学遺産の保存と活用―ヴェニス憲章とローザンヌ憲章の実践」
桃山学院大学　井上　敏、東京文化財研究所　二神　葉子
〔資料〕
「連邦レベルおよび州レベルの法律」
「解説：ドイツの文化財保護に関する法制度の概観」　桃山学院大学　井上　敏
「現地調査記録」　東京文化財研究所　二神　葉子

『重要美術作品資料集成に関する研究　平成 14（2002）年度報告書』

（①B01 の一環として実施）

『重要美術作品資料集成に関する研究　平成 14（2002）年度報告書』

はじめに　中野照男　1
美術資料学の構想へ向けて―前提と現状―　鈴木廣之　5
東寺観智院蔵木造五大虚空蔵菩薩像に関する調査研究　岡田　健　17
東寺観智院蔵木造五大虚空蔵菩薩像調書　岡田　健　21
東寺観智院蔵五大虚空蔵菩薩像の X 線写真の画像処理　城野誠治　43

『日本における外来美術の受容に関する調査・研究』（①B02 の一環として実施）

はじめに　中野　照男
「日本における外来美術の受容に関する調査・研究」中間報告―浮かび上がってきた問題点と今後に求められること―　山梨絵美子
研究成果
ミニシンポジウム「異文化受容と美術」報告
第１回　鎌倉・南北朝時代における外来美術の受容―「宋風」の問題を中心に―
ミニシンポジウムの概略／課題と目的／研究発表の要旨／討論の総括　津田徹英
討論　鎌倉・南北朝時代における外来美術の受容―「宋風」の問題を中心に―
第２回　江戸後期から幕末・明治初期における「漢」と「洋」
―南頻派と洋風画を中心に―
ミニシンポジウムの概略／課題と目的／研究発表の要旨／討論の総括　鈴木廣之
討論　江戸後期から幕末・明治初期における「漢」と「洋」
―南頻派と洋風画を中心に―
第３回　図像の受容とそのゆくえ―中国・朝鮮と日本の仏教美術―
ミニシンポジウムの概略／課題と目的／研究発表の要旨／討論の総括　勝木言一郎
討論　図像の受容とそのゆくえ―中国・朝鮮と日本の仏教美術―

『日本における外来美術の受容に関する調査･研究』

『東京文化財研究所芸能部所蔵　芝居番付目録』（①C01 の一環として実施）

歌舞伎の番付は、過去の上演を知るための一次資料である。

芸能部では早くから番付研究の重要性を指摘し、番付研究に基づく作者年表などを刊行してきたが、現在までに芸能部が収集した、上方歌舞伎を中心とする芝居番付の整理と調査を行い、目録を刊行した。

紙媒体以外による整理・公開も諸機関で模索されつつあり、芸能部でも画像データを付した形での WEB 上の公開をめざすものである。

歌舞伎番付（近畿）
歌舞伎番付（東海）
歌舞伎番付（中国・四国・九州・関東甲信越）
歌舞伎番付（その他）
操番付
その他
索引

『東京文化財研究所芸能部所蔵
芝居番付目録』

『伝統的修復材料に関する調査研究 I』（①E06 の一環として実施）

刊行にあたって　青木　繁夫
【琉球漆器研究】
琉球漆器の装飾に関する一考察　加藤　寛
A Study of Decorations on Ryukyu-shikki　KATO Hiroshi
琉球螺鈿の歴史と材料の変遷　宮城　清
The History of Ryukyu Raden and the Changes in Its Materials
MIYAGI Kiyoshi
【素材と分析の研究】
古糊の物性と化学組成に関する基礎的研究
早川　典子・木川　りか・川野邊　渉・樋口　恒・岡　泰央・岡　岩太郎

『伝統的修復材料に
関する調査研究 I』

外装用塗装法の耐候性向上に関する試み（2）
　　島津　美子・井口　智子・川野邊　渉・加藤　　寛・板垣　義郎・舘川　　修
臨海環境における丹塗りの変色に関する研究
　　島津　美子・森井　順之・川野邊　渉
伝統的焼付漆の応用的研究―蒔絵プラークの復元―
　　堀　　聖子・加藤　　寛・高橋　千恵
漆芸品クリーニングのための溶剤選定　　早川　典子
平成 13 年度　改質漆塗料の耐候性試験結果報告
　　島津　美子・加藤　　寛・舘川　　修・神長　　博

『焼損文化財の保存修復に関する研究報告書』（①E08 の一環として実施）

はじめに
樹脂含浸実験
貫入試験
圧縮強度試験と電子顕微鏡観察
おわりに

『焼損文化財の保存修復に関する研究報告書』

『日韓共同研究報告書』（①E03 の一環として実施）

1 章　国宝・臼杵磨崖仏次期保存修復工事のための基礎調査　　森井　順之
2 章　国宝・鎌倉大仏における環境汚染の影響　　青木　繁夫
3 章　日本：手宮洞窟における岩壁彫刻の保存　　内田　昭人
4 章　国宝・弥勒里寺院跡における環境調査
　　Jung-ki, Hong・Doo-sung, Eon・Sa-dug, Kim
5 章　国宝・弥勒里寺院跡における生物劣化
　　Gwang Hoon Kim・Tatiana A. Klotchkova・Yong Jae Chung

東文研 NEWS の発行（③A03 の一環として実施）
広報企画事業（③A03）の一環として実施した（67 頁参照）。

『東京文化財研究所概要』（③A03 の一環として実施）
広報企画事業（③A03）の一環として実施した（67 頁参照）。